

胃癌内視鏡治療後のセカンドルック内視鏡検査に関する研究 ご協力をお願い

当科では以下の臨床研究を行っております。この研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省，厚生労働省）に基づき、患者さんから同意を頂くことにかえて情報を公開することにより実施しております。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【研究課題名】

胃癌内視鏡治療後のセカンドルック内視鏡検査に関する研究

【研究の意義・目的】

胃腫瘍に対して上部内視鏡から特殊な器具を用いて切除する治療のことを胃粘膜下層剥離術(ESD)といいます。この治療は胃腫瘍の治療としては体への負担が軽度で有用な治療法です。しかしながら穿孔（胃に穴があくこと）や後出血（創部から出血すること）などがあります。後出血の予防として、術翌日以降に内視鏡検査を行い、必要があれば止血処理を行うセカンドルック内視鏡検査があります。この検査は後出血の予防に有用か否かは未だ議論があります。また施行する時期に関しても統一された基準はありません。

本研究の目的はセカンドルック内視鏡検査と後出血発生率の関係、後出血と抗血栓内服薬の関係、術後何日目にセカンドルック内視鏡検査を行うのがもっとも良いのか、などを検討することです。

【研究の対象】

2001年の治療開始時から2024年3月までに当科で胃ESDを受けられた患者さんが対象になります。

【研究期間】

承認後から2024年3月末まで

【利用する項目】

診療記録（既往歴 併存疾患 血液検査 画像検査 内視鏡所見 カルテ記載内容）

【個人情報の取り扱い】

本研究は、あなたのカルテや病院記録などの診療録を利用する観察研究ですが、プライバシーの保護には十分配慮致します。この研究を通じて得られたあなたに関する記録は、研究事務局に集められて保管されますが、あなたのお名前はわからないようになっていますし、研究の管理者以外の目にふれることはありません。情報が他機関に提供されることもありません。

この臨床研究の結果は雑誌や学会で報告しますが、その時もあなたの名前や個人を特定できる情報は使用しません。

【研究内容の開示について】

本研究の研究計画書は杏林大学医学部附属病院 ホームページの上部消化管外科から閲覧することができます。

【研究への参加を希望されない場合】

今回の研究へ参加を希望されない患者さんは、下記の研究責任者までご連絡ください。患者さんに関するすべての医療情報の登録の中止と削除を速やかに行います。

【この研究の倫理審査について】

この研究は、本学の医学部倫理委員会によって、研究計画の妥当性が評価されており、患者さんの権利が守られていることや、医学の発展に役立つ情報が得られることなどが検討され、医学部長の許可を得て実施が認められています。

【本研究に関する問い合わせ先】

杏林大学医学部 消化器・一般外科学教室

研究責任者 大木亜津子

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

Tel : 0422-47-5511 (内線 7736)

E-mail: akkoohki@ks.kyorin-u.ac.jp

共同研究者 阿部展次